

## 2 分析結果の要約

### 分析 1

#### 調査の概要及び教科の調査結果の分析

(1) 「基礎・基本」定着状況調査

〈タイプⅠ〉

- 小学校全教科及び中学校3教科（理科を除く）でおおむね定着している。

〈タイプⅡ〉

- 小学校全教科，中学校数学，理科，英語において，知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに課題がある。

(2) 全国学力・学習状況調査

- 小学校は，全ての教科において，平均正答率が全国平均を上回っている。

- 中学校は，国語，数学Bは平均正答率が全国平均を上回っているが，数学Aについては全国平均を下回っている。

### 分析 2

#### 質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

(1) 「課題発見・解決学習」に関すること

- 児童生徒質問紙調査の「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において肯定的に回答している児童生徒は，否定的に回答している児童生徒に比べて，全ての教科のタイプⅠとタイプⅡで，平均通過率が高い傾向が見られる。

- 「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において，学校が指導の工夫について「よく当てはまる」，「やや当てはまる」と肯定的に回答している割合よりも，児童生徒が肯定的に回答している割合は低い。

(2) 生活と学習に関すること

- 「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連のうち，各教科の平均通過率の差の合計が大きいもの上位5つのうち，小学校，中学校に共通している質問事項「分からないことはそのままにせず，分かるまで努力しています。」等

- 「家庭学習」に関する全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連のうち，全ての教科で10ポイント以上の差があった質問事項「家で，学校の宿題をしていますか」

- 「めあてと振り返り」に関する全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連のうち，全ての教科で10ポイント以上の差があった質問事項「5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」

(3) 教科調査の結果と児童生徒質問紙調査の回答状況との関連

- 全ての教科で10ポイント以上の差があった質問事項

「基礎・基本」定着状況調査

「授業では，自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」

全国学力・学習状況調査

「5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか」等

### 分析 3

#### 通過率 30%未満の児童生徒の状況

(1) 通過率 30%未満の児童生徒の教科調査における状況

- タイプⅠの通過率 30%未満の児童生徒の平均通過率と県の平均通過率との差が最も大きかった設問

小学校 国語 三1③ 第3学年の漢字の読み（かさねる）

小学校 算数 ①（4）3位数÷2位数

小学校 理科 ⑤（1）昆虫の体

中学校 国語 三1① 小6の漢字の読み（たんさ）

中学校 数学 ①（5）式の値

中学校 理科 ⑤（2）根のようすによる分類

中学校 英語 実技 音読 内容を考えた音読

(2) 通過率 30%未満の児童生徒質問紙調査における回答状況

- タイプⅠの通過率 30%未満の児童生徒の肯定的な回答の割合と通過率 60%以上の児童生徒の肯定的な回答の割合との差が最も大きかった質問事項（小・中学校共通）

「分からないことはそのままにせず，分かるまで努力しています。」

「自分がすべき仕事や作業は，責任をもってやります。」

「算数（数学）の授業はよく分かります。」

### 分析 4

#### 平成 27 年度「基礎・基本」定着状況調査の結果と平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

- 広島版「学びの変革」アクション・プランについての研修を行った。

- 「基礎・基本」定着状況調査報告書や広島県学力調査報告書の分析を活用して，自校のデータを分析・考察する研修を行った。

- 調査対象学年の児童に対して，前年度までに，発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

- 調査対象学年の生徒に対して，前年度までに，授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れしましたか 等

### 分析 5

#### 小・中学校課題発見・解決学習推進プロジェクトの状況

(1) 「学びの変革」パイロット校事業指定校の状況

- 「基礎・基本」定着状況調査の指定校の平均通過率及び全国学力・学習状況調査の指定校の平均正答率は，県の平均通過率（正答率）を上回っている。

(2) 学力向上チャレンジ校事業指定校の状況

- 「基礎・基本」定着状況調査において，小・中学校指定校の平均通過率と県の平均通過率との差を比較すると，小学校の全教科で県平均を上回り，その差が大きくなっている。また，中学校の数学と英語でその差が縮まっている。